

広報誌“もしもし”の目指す 双方向コミュニケーション



広報ワーキング委員長
中野 清治

「もしもし」も創刊から2年となりました。創刊時は、インターネットの時代に今さら広報誌などという批判もあり、果たして原稿が集まるのだろうか、また、多くの方に読まれるのだろうかという不安もありました。題名も職員からの公募のあと投票により決めましたが、票が割れてなかなかまとまらず、最後は、院長の鶴の一声で「もしもし」と決まった次第です。電話会社だから、「もしもし」なのではなく、より良い医療を行うコミュニケーションの場としての呼びかけなのだとして理解しています。

「もしもし」の目指すものは、当院からの一方的な情報の発信ではなく、病院を利用される皆様や近隣の医師会の先生方との架け橋となることです。そして、これからの病院とはどうあるべきかを考える場を提供することにより、少しでもよりよい医療を展開したいという病院の姿勢を示すことです。

これにはまず、現在の医療体系の中で、当院の急性期病院としての位置づけを明確にすることが重要です。これに対しては、「かかりつけ医を持ちましょう」

というスローガンのもとに病院と診療所との役割分担を明確にし、病診連携の推進を唱えてきました。病院と診療所との連携をより円滑に行うためには何が必要かを、互いに考えることができればと思っております。当院での治療が必要な重篤な患者さんをつつでも受け入れられ、一方では、外来診療待ち時間の短縮などにつながれば素晴らしいことです。

また、当院で行っている多くの医療を紹介することも重要と考えております。急性期病院で扱う疾患の象徴であり、国民の三大死因でもあるがん、心臓病、脳卒中につきましては特別なコラムを設け、それ以外の多くの治療は「医療の現場から～先端医療～」で取り上げています。



2004年11月・12月号 vol.1
ご挨拶: 発行によせて(落合院長)



2005年1月・2月号 vol.2
特集: 電子カルテで病院が変わる



2005年3月・4月号 vol.3
特集: かかりつけ医を持ちましょう



2005年5月・6月号 vol.4
特集: こんなお医者さんにかかりたい



2005年7月・8月号 vol.5
特集: コラボレーション医療

さらに、患者さんや、医師会の先生方との両方向のコミュニケーションをはかるために、「患者さんの声」、「読者からのお便り」、「近隣医師会からメッセージ」などを設けました。「患者さんの声」はオレンジボックスに寄せられた投書から貴重なご意見を選ばせていただき、必ず前向きなコメントを載せることといたしました。これまで、院内での携帯電話の使用について、病院敷地内禁煙の周囲への影響、ジェネリック医薬品について、血液検査の結果がわかりにくい、産婦人科の待合室への男性の出入り、シャトルバスの混雑や駐輪場の使い勝手、差額ベット代の計算方法が不明瞭、託児サービスや小さい子供の遊べるスペースがほしい、予約診療なのに待たされる、診察券やクレジットカードの個人情報の保護、手術を受ける時に用意するもので本当に必要なものはなにか、などを取り上げました。

いずれも病院として対応を明確にし、今後検討していかなければいけない重要な課題であり、「もしもし」の紙上を通じて患者さんとのあいだに共通認識できたことは意義深いことです。また、「読者からのお便り」、「近隣医師会からのメッセージ」ではできるだけ当院への苦言も呈していただき、今後の改善点といたしたいと考えております。

特集では「かかりつけ医を持ちましょう」、「こんなお医者さんにかかりたい」、「電子カルテで病院が変わる」、「コラボレーション医療」、「手術費

用と医療費のしくみ」、「人間ドックのすすめ」、「治療について」、「災害時医療活動」、「職場復帰援助プログラム」、「病病連携」、「クリニカルパス」など、現在、医療の分野で社会的にも関心が持たれている話題を取り上げました。興味のある方は当院ホームページ (<http://www.ntt-east.co.jp/kmc/>) からバックナンバーをみることができますので、ご覧ください。

「もしもし」の企画、編集は広報ワーキングで行なっています。メンバー構成は医師、看護師、薬剤師、技師、栄養士、事務職など多彩であり、雑誌編集に関してはどちらかというと素人の集合体です。このように手探りで締め切りに追われながらの作業でしたが、次第にページ数、発行部数も増加し、原稿も確実に揃うようになりました。号をかさねるごとに好評なのはうれしい限りです。そして、平成17年度の全国ヘルスケア情報誌コンクールでは、約120の応募誌のなかでベスト2に入り、優秀賞の栄誉をいただきました。

内容も創刊当時に比べだんだんとグレードアップし、「もしもし」は常に進化していると言われております。今後も、よいと思われる企画はすぐに取り入れていきたいと考えております。病院を利用される皆様の忌憚のないご意見をお待ちいたしております。

これからも「もしもし」のご愛顧のほどをよろしくお願い申し上げます。



2005年9月・10月号 vol.6
特集: なるほど、医療費



2005年11月・12月号 vol.7
特集: 災害時医療活動とトリアージ訓練



2006年1月・2月号 vol.8
巻頭言: 阿吽の呼吸(落合院長)



2006年3月・4月号 vol.9
特集: 人間ドックのすすめ



2006年5月・6月号 vol.10
特集: 治療についてご存じですか?



2006年7月・8月号 vol.11
特集: 病院連携



2006年9月・10月号 vol.12
特集: クリニカルパス



2006年11月・12月号 vol.13
特集: 職場復帰援助プログラム



2007年1月・2月号 vol.14